

令和5年度第3回 旧西尾家住宅修理専門会議 発言要旨

1 日時

令和5年12月26日(火) 午後1時30分から午後4時30分まで

2 場所

吹田市立内本町コミュニティセンター

3 出席者(敬称略)

【委員】足立、日向、藤田、仲、瀧野、前川

【文化庁】文化資源活用課 石田

【大阪府】文化財保護課 神谷、萩原

【工事監理者】建築研究協会 野々部、辻、伊藤、宅間

【工事施工者】中島工務店 鳴海、川里

【吹田市】文化財保護課 葉山、西本、立岡

4 議題

重文 旧西尾家住宅主屋ほか6棟建造物保存修理工事(I期工事)について

工事進捗状況報告・主屋の構造補強について・敷地及び建物の変遷についての中間調査報告・現時点での完成形の考え方(方向性)

5 主な発言要旨

○主屋の構造補強について

- ・これまでの懸案事項はほぼ解決していると思われる。
- ・構造補強の大きな方針としてはこれでよいが、耐震建具など細かい部分は、建築構造を専門とする委員にアドバイスをいただきながら、もう少し検討してもらいたい。

○敷地及び建物の変遷について

- ・時代分けについて、戦前から戦後をまたぐとガラッと変わるので、昭和10年～20年代とまとめるのではなく、昭和戦前期と戦後期に分けたほうがいい。
- ・合理的な説明がつけばいいが、説明がつかないものは未確定ということにしておくべき。

○完成形の考え方(方向性)について

- ・住宅というのは色んな人が住んできた痕跡を大事にしないといけないのではないかな。どこかを変えてしまうよりは、現状を全体像として見ていく。その中でどんな不都合があるのかを議論すべきかと思う。
- ・保存・活用のしやすさということを考えながら、そうであればこうした方がいいという形でまとめていくというのも一つの考え方としてあると思う。
- ・時代で決めるのは違うという意見もあるが、やはり大正末～昭和初期あたりがターゲットの時代にはなるのではないかな。その中で、縁座敷のところをどうするのかといった議論は必要だと思う。
- ・ちょうど内堀のところで和と洋という形に分かれている。和の方には積翠庵や四腰掛等があって、茶室なども一体的に考えていた11代の主屋周りの構成も残したいし、設備も含めてある時期以降電化していく、洋の部分も両方あればいいかなと思う。
- ・庭園もだんだん変わってきている。庭園から言うと現状の形を基本にしたらいいいのかなと思っている。
- ・敷地全体で見ても、大正末から昭和初めあたりが完成した時期と言えるのではないかなと思うが、そのあとの改造がどうなのかということが一番考えるべきところだ。大正末から今までの間の姿で、どの姿がこの建物にとって文化財的に一番価値があるのか、というところを目指していかなければならない。
- ・西尾家の現状というのは、11代が作り上げてきたものを引き継ぎながらこれまで代々暮らしてきた、その営みの結果であり、そこを最大限考慮するべきだと思う。
- ・これだけ大きい修理は当分ないので、今後100年ぐらいの姿となってくる。どういう姿でやるべきか、というのは引き続き関係者で考えていけたらと思う。